

ことばの雑学

— 言語と形式 —

■講座内容

言語学とは、「ことばとは何か、ことばはどのように働いているのか」という問いに答えようとする学問です。現在、世界には数千とも言われる言語があり、そのそれぞれに独自の音韻や文法の体系があります。語学が苦手でも言語学を通して学ぶと違った側面が見えてくるかもしれません。

昨年度に引き続き、言語学の基本的な概念を概観しつつ、言語学の幅広い分野のうちからいくつかのトピックを取り上げ、言語学の面白さを体感します。自分の話す言語を客観的に見られるようにしたい方にお勧めです。

■講師 福岡大学

第1講：言語教育研究センター外国語講師 丁仁京

第2講：人文学部教授 江口 正

第3講：人文学部教授 森澤 万里子

第4講：人文学部教授 青木 文夫

期間	5/20～6/17 4回
曜日・時間	土曜日 10:00～11:30
対象・定員	一般・学生 45人
会場	福岡大学
受講料	2,000円（4講）
受付・申込方法	先着順 5ページの申込方法参照

■講義内容

講	月	日	曜日	担当	講義内容
1	5	20	土	丁	韓国語の形式名詞「것(コッ)」と日本語の形式名詞 韓国語の形式名詞の一つ「것(コッ)」は、日本語で「もの・こと・の」と訳されます。この「もの・こと・の」は、「新しい[もの/の]がいい/ミスがない[こと/の]を確認する」の場合はいずれも可能ですが、「彼が来る[こと/の]を待つ」のように「こと」が使えない場合もあります。このように、日本語ではそれぞれの形式名詞が役割を持ち、文の意味や機能によって使い分けをしています。本講では、韓国語の「것(コッ)」を中心に、日本語の形式名詞と対照しながら、両言語の文法的な性質について考えます。
2	5	27	土	江口	「数」に関する文法 外国語を学ぶとき、「単数・複数」の区別は日本人にとって難しい文法項目となっていますが、果たして日本語には単数・複数の区別は全くない、あるいは曖昧なのでしょうか。実は「私」と「私たち」のように、単数・複数の区別が必須の場合もあります。本講では、「数」に関する様々な文法的な性質を日本語・諸外国語の具体例を見ながら比較していきます。
3	6	10	土	森澤	文字の不思議 —ドイツ語の文字と書体 文字は私たちにとって身近な存在ですが、身近であるがゆえに文字の機能に考えをめぐらす機会はあまりないように思われます。本講では、音声言語にはない文字の機能から話を始め、アルファベットの成り立ちや、ドイツ語特有の文字、書体等を取り上げます。歴史の流れの中で培われたドイツ人と文字の関わりあいを知ることにより、文字の不思議、そしてその魅力に改めて目を向けます。
4	6	17	土	青木	プロ脱落言語とは？ 英語は特別な場合を除いて主語が省略できません。それに対しスペイン語では主語が省略されます。このあたりはよく知られている事実ですが、英語やスペイン語に対し、日本語は主語だけではなく、目的語も省略できます。実は、この現象が日本人のスペイン語などの学習の妨げになっていることはあまり知られていません。こういった側面の理論的な部分と実用的な部分を解説します。